



波紋

創立10周年めをむかえて

NPO法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 佐々木 武志

学校に行きたくても行けずに悩んでいる子ども、勉強についていけない子どもたちに学ぶ場・憩いの場を提供することを目的に、平成16年に「教育活動総合サポートセンター」を設立した。「子ども

に力」を合言葉に、子ども自身が自分の力で課題を解決していく力を身につけるための学習支援を続けてきた。
この10年間のサポートセンターの成果をみると、文部科学省の研究委託を受けたことが大きかったように思える。

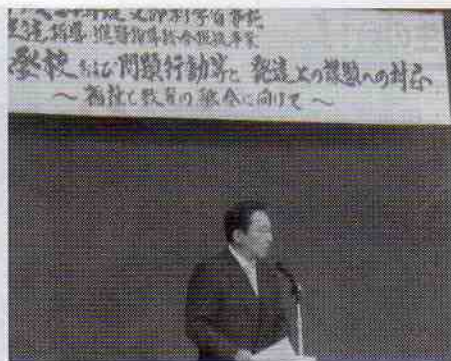
平成17年から4年間の研究主題は「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究」であった。不登校の状態にある子どもへの心のケアを図りながら学習支援を行うことで、多くの子どもが学校復帰を果たした。

平成21年から2年間の研究は、いじめや非行等あらゆる不適応の状態にある子どもを対象を広げ、支援活動を行った。



平成23年度は研究委託を受けることができなかったが、24年度再び研究委託を受けることができた。

最近の子どもを見ると、発達上の課題や親の生活・養育上の困難・虐待等様々な課題が重複している事例が見られる。これらの課題解決に向けて、研究の副主題を福祉と教育の融合として、横浜国立大学名誉教授 岡田守弘先生の指導を受け研究を進めた。



研究報告会には180人を超す多くの皆さんのご参加、そして、貴重なご意見を数多くいただき、融合に向けて一歩進めることができた。参加いただいた皆さんにお礼を心から申し上げます。

サポートセンターでは、子どもたちが「明るく・楽しく・元気よく・いきいきとした」活動を願って「輝け☆明日の先生の会」「教育活動サポーター配置事業」「特別支援教育サポーター配置事業」等様々な事業を展開している。10年めをむかえ、気持ちを新たに、少しでも学校への支援ができるよう、活動を充実させたい。

皆さま方のご支援とご指導をお願いしたい。

25年度活動方針・事業計画

「子どもに力」の法人設立の理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるよう組織機能の一層の充実を図る。

1 活動方針

- ① 基礎基本を重視した学習支援の中で学力の充実を図り、また、様々な体験活動を通して、学校復帰や社会参加促進を支援する。
- ② 家庭・学校・地域および関係機関等との連携を深め、相談活動を中心とした社会福祉活動に努めるとともに、各学校の教育活動の充実発展を支援する。
- ③ 一人ひとりの児童生徒が、心豊かにそして生きる力を身につけられるよう支援する。
- ④ 組織力の強化と諸活動の充実、幅広い活動会員の受け入れと、賛助会員の拡大を図る。

2 事業計画

学校へ行きたくても行けない子どもたちのために、学習・相談の支援活動を10年前から始めて来た。これからの実践は、平成17年度より6年間にわたる文部科学省の研究を推進することにより、実績を積み上げてきている。この実践研究を基礎として昨年度より外国籍児童生徒の学力向上事業が幸区との連携で始まり、生活困難家庭の児童生徒に対する学力向上、居場所づくり支援が始まった。21年度途中より「川崎区教育支援」(こどもサポート旭町)事業も始まり、すでに活動を開始している「子どもサポート旭町」「こどもサポート南野川」「中原区教育支援」等と一体的な活動を進め不登校児童生徒のみならず、問題行動児童生徒を含めた支援活動に取り組む。

(1) 学習指導部

① 学習指導
不登校児童生徒の学校復帰をはかるため、児童生徒の特性を生かした指導の充実を図る。

② 日本語指導

海外からの帰国児童、外国人へ日本語指導、外国語への支援を図る。

③ サイエンスキッズ

実験・実習を通して理科学習の楽しさを味わわせる。

④ キッズセミナー

生涯学習プラザを会場に「得意な科目はさらに得意に」「疑問、矛盾を解決する自由研究」等多様な講座を開設し個性伸長を図る。

(2) 相談・適応指導部

① 相談活動

不登校児童生徒、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒の相談活動を推進する。

② 適応指導

ふれあい活動宿泊体験
不登校児童生徒が心を開き軽度特別支援児童生徒が自ら進んで活動できるように、子どもに活力をつけた。
体験活動
鎌倉遠足、修学旅行を再現したり各種体験をさせたい。

③ 特別支援

支援事業を充実させていく。特別支援教室の担任経験者、指導主事経験者、行政で対応した経験者の充足を図る。

④ 学校との連携

児童生徒のサポートセンターでの学習、生活状況の変容等の様子を学校に連絡し、学校との連携を深める。

- ③事業部
 - ①青少年の家・管理運営事業
 - 自主事業の充実・発展に努め、地域・家庭・学校との連携を図る。
 - ②大山街道ふるさと館・管理運営事業
 - 館の管理運営と地域の歴史、民俗資料の展示活動、文化活動、講演活動に職員のみならず、市民の幅広い参加を図る。
 - ③子どもサポート南野川・管理指導事業
 - 不登校児童、軽度特別支援児童生徒、反社会的傾向児童生徒の学習支援を図る。
 - ④子どもサポート旭町・管理指導事業
 - 不登校児童生徒、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒に対する学習支援及び集団遊戯を通じた学校、社会復帰に向けた支援。
 - ⑤輝け☆明日の先生の仕事
 - 教員を目指す臨任、非常勤、大学生等が対象。教育に関する様々な課題を具体例を通して学ぶ。年間15日(25講話)、ゼミナール7日を予定。
 - ⑥サポーター配置事業
 - 特別支援、学習支援に年間を通して、学生等を配置する。
 - ⑦学校図書館有効活用
 - 休日、夏期休暇、読書週間等の期間、学校図書館を一般市民や児童生徒に開放し、その施設管理や読書指導を行う。
 - ⑧文化講演会
 - 教職員、PTA、市民向けに文化向上を図る講演会を企画開催する。
 - ⑨各区から受託した事業
 - 昨年度より川崎区、中原区、高津区、宮前区から、子育てに関する事業を受託している。各区民の期待にそうよう、また、各種の問題や課題の未然解決を図れるよう、それぞれの区と綿密な連絡を取りながら事業に推進のあたる。

平成24年度 文部科学省委託研究

主題 「不登校および問題行動等と発達上の課題への対応」

文部科学省委託事業

当サポートセンターでは、個々の子どもが求める学習支援と居場所づくりを進めている。平成24年度の研究はこうした支援や居場所づくりについて「子どもの困りは何か、発達上の課題は何か」を調査することから始まり、一人ひとりに向けた指導プログラムによる支援



実践事例の報告

「どこにも居場所がなく、心に不安を抱えるF女」
この事例は、F女の「学校に戻りたい」という思いを、関係する機関がどのように取り組んだかの

「福祉と教育の融合に向けて」

当サポートセンターでは、個々の子どもが求める学習支援と居場所づくりを進めている。平成24年度の研究はこうした支援や居場所づくりについて「子どもの困りは何か、発達上の課題は何か」を調査することから始まり、一人ひとりに向けた指導プログラムによる支援

具体的には、F女の在籍する中学校の校長先生からのF女の学習依頼に端を発する。F女には、家庭状況等を踏まえ、安心できる居場所と学習環境を意識して対応した。

関係する機関(学校・児童相談所・福祉事務所・サポートセンター)が情報交換し共通理解を図った。その上で各機関がその役割に応じた対応をし行動に移した。現在、F女は遅刻などを除くも学校に通学できている。(片山)

川崎の教師塾

この講座は平成19年度に開講しました。ベテランの先生の大層退職が迫り、学校ではかつて経験したことのない課題を抱えることが予想されました。そんな時に何か学校のお役に立ちたいと考えたのでした。以来6年、多くの志のある先生方に受講していただき、当初の目的は達成できたと考え、講座は休講いたします。受講してくださった先生方のご活躍を期待しております。

「輝け☆明日の先生の会」

NPOサポートセンター主催の「輝け☆明日の先生の会」もすっかりと定着してきました。川崎市の教育を目指す臨任・非常勤・学生・社会人等の105人が受講し、笑顔あふれる講座・ゼミを進められました。4月から出身者が小中学校の子どもの前に立ちます。講座・ゼミを進めるにあたりNPO会員の皆さまには長年培ってきた教師力をフルに発揮いただきご協力に感謝します。今年も活気あふれる充実した会にしていきたいです。



「研究の経過」および「事例報告」の後、休憩をはさんで全体会で研究協議を行った。出席者は、159人、教育会館が満席になるほどの盛況ぶりであった。

研究協議会報告

研究全般についての質疑応答の後、「福祉と教育の融合」という点に焦点を当て協議を進め、福祉と教育に携わる関係機関の方々から、それぞれの機関の持つ役割・連携・融合等々の実際例および見解についてご発言いただいた。日頃、学校教育を通して児童生徒の支援に携わっている参加者にとっては、専門機関との連携、融合の大切さを改めて認識する機会となったようだ。(本間)



サポーター配置事業

市内の通常級および特別支援学級の指導体制の充実に向けたサポーター配置事業。今年度は小中全市の学校で申請書が出された。500人を超えるサポーターの中に教員を目指している学生が70%以上を占めている。サポーターの経験が教員採用後に生きて働く力となるはずである。サポーターの支援はサポーター自身の経験になり子どもにも力がつく。この事業は川崎市独自の行政支援でもありサポーターの登録と学校への紹介等スタッフの専任が続けている。(薬部、對馬、藤田、長澤、大原、渡邊)

川崎市青少年の家

- 子ども仲間づくり「エコチャレンジクラブ」
- 子ども運営委員会
- 昔遊びプロジェクト(仮称)
- プール開放
- シニア卓球教室
- よちよち歩きの子あつまれ
- ※おはなし会、リトミック
- 放課後おもしろクラブ
- ※理科、造形教室、お箏であそぼう
- 青少年の家フェスタ
- さらに発展を願っている。

夢ぶ喜び 楽つわ

給食調理さんをめざして

低学年の時、給食調理員の仕事を
見学しました。私たちの給食を
つくって大変だと感じました。私
の家では、祖母と父と母の3人が
交代してつくっています。でも、
学校では、約300人分の給食を
毎日つくっているからすごいと思
いました。私たちに喜ばれる料理を
つくってくれて、うれしいと思
いました。私は、とくにシチューが
好きです。レストランよりおいし
いものです。

私も子どもたちに喜ばれる給食
調理員さんになるのが、今の夢です。
(小4・T・M)

イラストレーターになって活躍

私の夢はイラストレーターにな
る事です。私は、小さい時から絵
を描くのが大好きでした。

絵はいろいろな気持ちを表現で
きるし、文字が書いていなくても、
相手に何かを伝える事ができます。
大人になって私の描いた絵が売れ
るようになったらいいな、と思っ
ています。そうしたら、世界中の
困っている人や、子どもたちのた
めに食料や文房具、日本のおもち
やを送ってあげたいのです。そ
して、日本の文化についてたくさ
ん知ってもらえたらうれしいこと
です。
(小5・M・F)



高等学校合格に感動

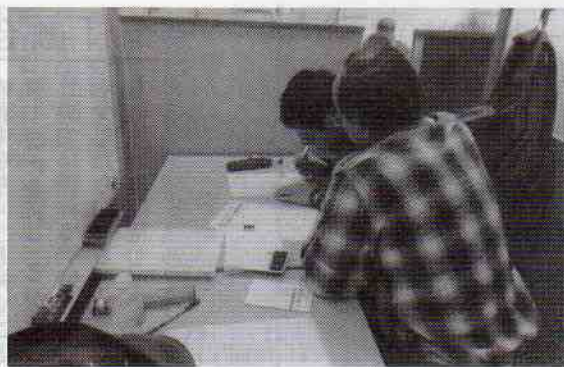
私の夢は、日本の高校を卒業し
て外国の大学に行くことです。

私は、平成23年中学2年生の時、
パキスタンから母の国である日本
に来ました。

私が最初にながらばりたいと思っ
たことは、日本語の読み書きです。
日本語の読み書きができればほか

自立へ向かって・・・

小4の息子は一見障害があるよ
うには見えませんが、発達障害の
特徴を持っています。言葉の意味
がわかっていても、周囲の状況や
物事の流れを把握する事が苦手で
触られる事を嫌がためコミュニケーション
や対人関係、生活上の
困難さがあります。小3の娘も息
子同様、発達障害があり、注意を
持続させ、聞いた事を記憶する事
や、同時に二つ以上の事柄に取り



の教科も楽しく勉強できるし、高
校受験も大丈夫と思ったからです。
その受験に向けて、母・日本語
指導の先生・NPOの先生たちが、
いつも真剣に勉強を教えてくださいま
した。
私は高校を合格した時、とても
感動しました。夢に一步近づいた
と思いました。
(中3・B・S)

目標をもつて努力

ぼくは、サポートセンターがな
かったら今も、学校に行っていな
かった。理由は、小学校でいじめ
られていたからだ。友達もいなか
った。僕は、学校にいるだけで辛
かった。耳が突然聞こえなくなる
ことがあった。

そんな時味方が誰もいないと思
った。でもそんな時ぼくは、サポ
ートセンターに来ていた。ここな
ら自分の話を聞いてくれる先生が
いた。僕にとっては、心の居場所
だった。ときどきこころのふれあ
い活動に参加した。

この活動では、僕みたいな思
をした人たちと仲良く語りたりし
た。僕にとつて大事な事だ。勉
強も、わかりやすく教えてくれる。
もし僕が大人になったら先生たち
に恩返ししたいと思う。恩返しは
将来僕がなりたいた夢を実現するこ
とである。それには目標をたて、
努力するのだ。
(中1・I・Y)

組む事が苦手で、自分
の考えや困っている事
をうまく伝えられずパニックを起
こしてしまう事があります。そん
な2人は、学校の先生や友人にな
かなか理解してもらえずに、心な
い言葉や嫌がらせに傷つき、不登
校になりました。みんなが当たり
前に行ける事がなかなかできない
前には、サポートセンターに
2人ですが、サポートセンターに
通い始めて2か月、声かけをしな
くても自ら勉強に取り組みするよ
うになり、今まで「できない」とあ

らめていた事にもチャレンジする
ようになりました。自立へ向かっ
て少しずつ歩み出したように思
います。サポートセンターは居場所
であり、修行の場です。先生が書
いてくださる連絡帳を拝見すると
学習内容やセンターでの様子がよ
くわかり、家庭の中で2人と接す
る上で参考になります。
これからも、温かいご指導をよ
ろしくお願いいたします。
(小4・5母・M・H)

雲はのんびり屋

青木 空

雲はのんびり屋だ
いつも、ゆっくりに動いてる
雲は、気ままだ
いつも、行きたいところに行っている
雲は、友達がいっぱいだ
いつも、仲良く仲間と話したり...
くっついてたりして
でもたまに、風に吹かれると...
いつも来るときまで飛ばされる
雲が怒ると、雷が落ちてくる
雲が泣くと、雨が降る
雲も、僕たちと同じ感情がある
でもやっぱりのんびり屋なのは、変わらない
(中1・S・Y)

待っています!

国民栄誉賞を受けた松井秀喜さ
んの著書から抜粋します。
彼は甘い物が大好きで和菓子や
ケーキ、アイスクリームは大好物
だそうです。アメリカには甘いお
菓子がたくさんあるのですが食べ
ていたら体重が増え、体重が増え
るとケガが増えるので甘い誘惑に
負けないようにしたそうです。
母校の星稜高校練習場には次の
ような言葉が掲げられていて、今
も自分の心の中で輝く言葉になっ
ているそうです。

「心が変われば行動が変わる
行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる
人格が変われば運命が変わる」
さあ、春です。新しい出発の時
期です。「継続は力なり」皆さん
の来所を待っています。
(サポーターN・G)

